

坂井美知子

人間存在証明

傷だらけになって転げ回る
列からはみだしてどやされる
ぼんやりした子ども

他愛もない幼年時代

よくある思い出の一言といったところ

なのに私は

どうしてもその瞬間へ幾度も
連れ戻され突っ立ってしまう
見えているのは今ではない
あなたたちが過ぎ去ったと笑う
あの刻まれた時そのもの

真夏なのに足元が凍りつく
笑っている絶望と泣いている希望が
哄笑と嘆きが私を貫いて
こころを軋ませる

抱えた時と痛みそれだけが
皆と同じモノなのだとしめるが
共有はされない
それでも微かに繋がりを続けた
たったひとつの
私の人間存在証明なのだ